



「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ	4
子どもゆめ基金ガイドの活用方法	5
「体験の風をおこそう」運動	6
平成26年度助成活動事例	
○子供の体験活動	
【自然体験】	
・湯沢六日町親子でスキー体験・雪遊び	8
・3町村（釧路町、標茶町、鶴居村）合同青少年宿泊研修 ～釧路湿原から学ぶ絆づくりプロジェクト～	10
【科学体験】	
・北海道科学ボランティア養成講座	12
【交流体験】	
・身につける技術と思いやり つなガール	14
・みんなでチャレンジ 友だちの輪「体験の風をおこそう運動」	16
【社会奉仕】	
・体験活動 遠州灘海岸におけるビーチクリーンアップ	18
【職場体験】	
・みんなでワイワイさんあいイベント	20
【その他の体験】	
・しゅうなん子どもドリームスクール2014	22
○子供の読書活動	
【読書】	
・本の世界を楽しむ子どもBOOKステーション	24
・コラム（絵本専門士養成講座）	26
○教材開発・普及活動	
・読書活動支援ソフト「本の海大冒険」	28
平成26年度助成活動で開発された教材一覧	29
普及啓発事業の事例（日中韓子ども童話交流事業）	30
平成26・27年度 申請・採択状況	32
子どもゆめ基金へのご協力を 「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様	裏表紙

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。(平成25年度中教審答申より)

体験活動に関する調査((独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する

調査研究」(青少年の体験活動等と自立に関する実態調査)では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身につけており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。

民間からの寄附

独立行政法人
国立青少年教育振興機構
子どもゆめ基金

助成



子供の体験活動を支援

助成



子供の読書活動を支援

「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

◆ 助成の対象となる活動

- 1 子供の体験活動
 - ・ キャンプや自然観察などの自然体験活動
 - ・ 科学実験教室等の科学体験活動
 - ・ 文化・芸術、スポーツ等を通じ交流を目的とする体験活動
 - ・ 清掃活動等の社会奉仕体験活動
 - ・ 地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動
 - ・ 子供の体験活動の指導者養成 など
- 2 子供の読書活動
 - ・ 読み聞かせ会、読書会活動
 - ・ 子供の読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など
- 3 子供向け教材開発・普及活動
 - ・ インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

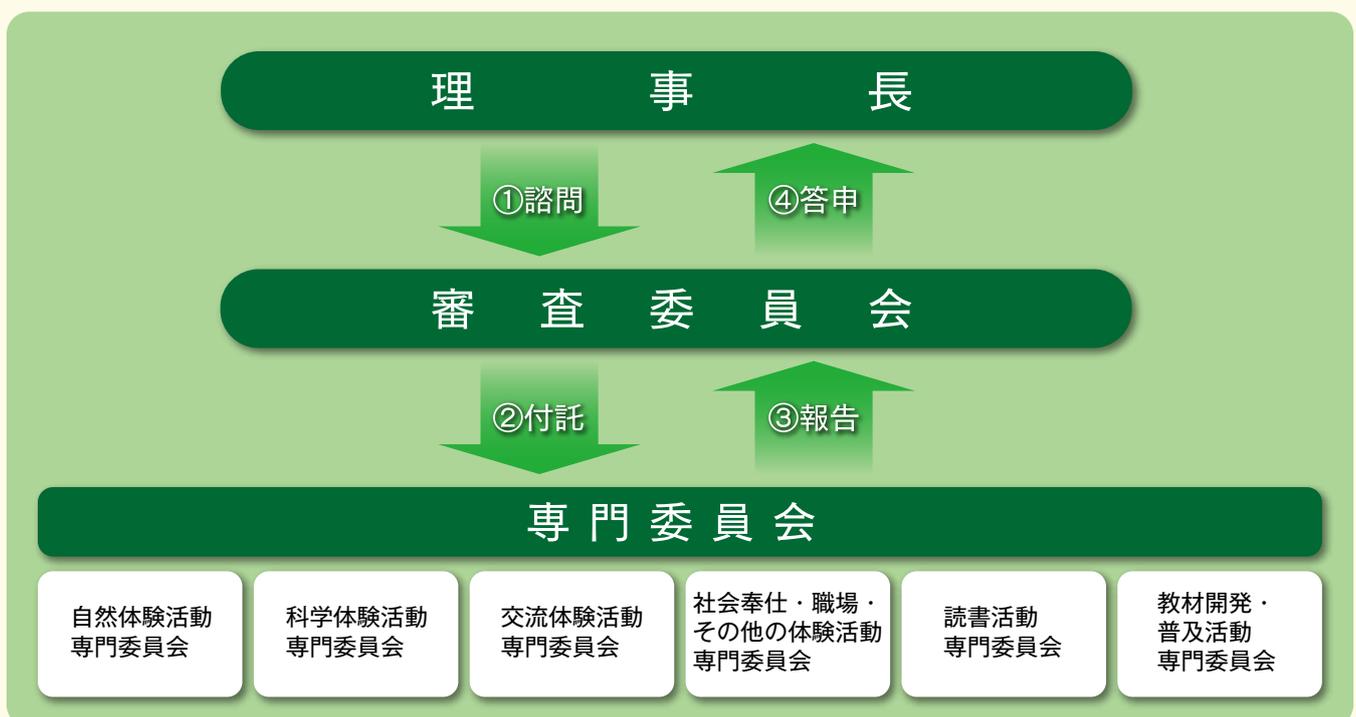
◆ 助成の対象となる団体

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

● 助成金の額と審査方法 ●

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。



困難な環境にある子どもの体験活動や読書活動への助成

◆ 背景

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成 26 年 8 月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

◆ 取組の概要

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、平成 27 年度子どもゆめ基金助成活動には、109 件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を 71 件採択しました。

◆ 助成の対象となる活動

この助成の対象となる活動は、以下 1、2 のとおりです。

1. 児童養護施設や母子生活支援施設をはじめとする経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的としている民間の機関・団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記 1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください、子どもゆめ基金部助成課までお問い合わせください。

普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。
(子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等)



子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ —申請までの流れ—

初めての団体、小さな団体のみなさまも、ご応募お待ちしております。

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイド2015を読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>

実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～11月にかけて全国10都市以上で実施しています。平成27年度は、東京・仙台・金沢・大阪・広島・福岡などで実施予定です。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。会場の詳細はホームページの注目情報からご確認いただけます。

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。
(メールでのお問い合わせ : yume@niye.go.jp、電話でのお問い合わせ : 0120-57-9081月～金AM9:00～PM5:45)

募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間	郵送	平成27年10月5日(月)～11月24日(火) 消印有効
	電子申請	平成27年10月5日(月)～12月1日(火) 17:00締切
二次募集期間	郵送	平成28年5月9日(月)～6月14日(火) 消印有効
	電子申請	平成28年5月9日(月)～6月21日(火) 17:00締切

- ※1 二次募集は市区町村規模・申請額50万円以下(様式B)のみとなります。
- ※2 直接持参する場合は、平日(土日祝除く)9:00～17:45まで受け付けます。
- ※3 初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。

募集案内や申請書は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能です。一度電子申請で手続きをとると、実績報告書の作成や次回以降の申請も簡単にできます。



「体験の風をおこそう」運動[®]

「体験の風をおこそう」運動とは

近年、社会が豊かで便利になるなかで、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。「体験の風をおこそう」運動は、子供たちの成長にとって、体験がいかに大切かを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。

青少年期の体験が大切な理由とは

- 子供の頃に、家庭や地域などで様々な体験をしたほど、大人になってからの資質・能力が高い傾向にあります。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子供の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

※詳しくは次のページをご覧ください。



「体験の風をおこそう」運動に参加してみませんか。

(1) 体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（平成27年度は10月24日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。エントリーは「体験の風」ナビゲーション（<http://taiken.nokaze.jp/search>）をご利用ください。

(2) 子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

(3) 上記(1)または(2)の事業に参加いただける団体には、希望により「普及啓発ちらし」や「のぼり旗」を、また(2)の事業の参加団体には、当委員会の松本零士委員長（漫画家）がデザインしたメダルと賞状を差し上げています。

また、これらの事業に関する印刷物等には本運動のロゴや、応援団（ガチャピン・ムック）の画像を使用することができます。

<普及啓発ちらし>



<のぼり旗>



<メダルと賞状>



<ロゴ>

「体験の風をおこそう」運動[®]



←エントリー方法等の詳しい情報は、当機構のホームページにある左記バナーからご覧になれます。

<応援団画像>



ガイドブック 「体験・遊びナビゲーター」



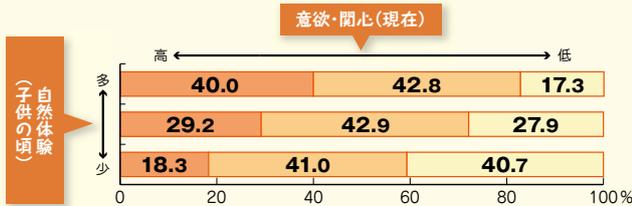
当機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

<http://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

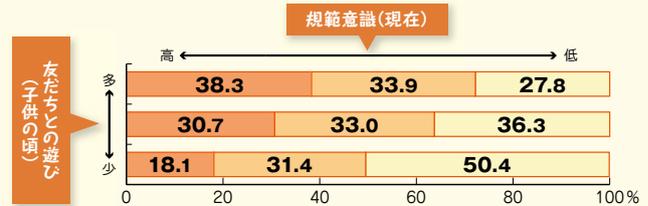
子供の頃の体験は豊かな人生の基盤になります!

子供の頃の様々な体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向にあります。
子供たちの健やかな成長には普段からの、友だちとの遊び、お手伝いや地域での活動などが大切です。

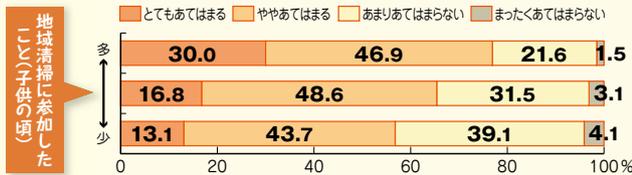
子供の頃の「自然体験」と現在の「意欲・関心」との関係



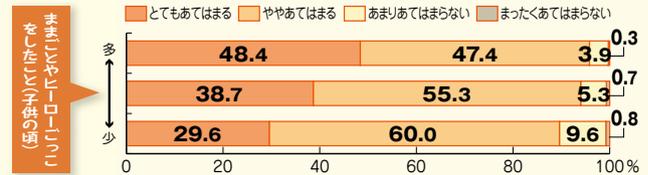
子供の頃の「友だちとの遊び」と現在の「規範意識」との関係



経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい(現在)

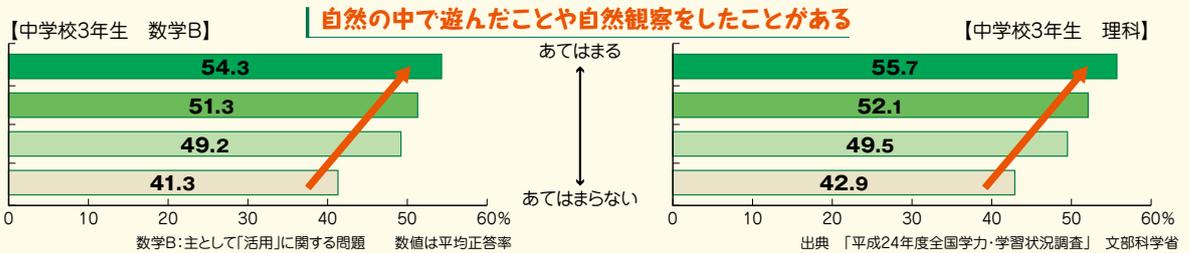


電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う(現在)

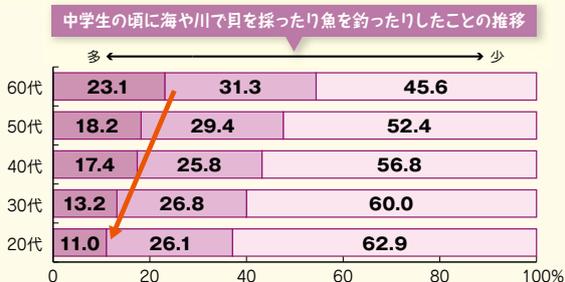


出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子供の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。



子供たちが、自然のなかや、友だちと遊ぶなどといった体験の機会が減少しています。



出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会
 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本キャンプ協会 日本子守唄協会 日本体育協会日本スポーツ少年団
 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本レクリエーション協会 ハーモニセンター ボーイスカウト日本連盟

体験の風をおこそう運動推進委員会事務局 (国立青少年教育振興機構調査・広報課) 〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1
 Eメール taikennokaze@niye.go.jp 電話番号 03-6407-7621

湯沢六日町 親子でスキー体験・雪遊び

- 活動期間／3月7日(土)～3月8日(日) 1泊2日
- 活動場所／湯沢六日町スキー場
- 募集地域／神奈川県横浜市北部
- 募集対象／小学生、中学生、高校生、保護者、一般成人
- 募集方法／◆チラシ(配布先:市内養護学校) ◆ポスター(市内養護学校、ボランティアセンター)
- 実施団体名／放課後を楽しむ会
- 構成員数／3人
- 連絡先／放課後を楽しむ会
E-mail : tami-s2691@ezweb.ne.jp



活動前の諸注意



初めての雪上体験(チェアスキー)

活動のねらいとポイント

余暇活動の困難な知的障がい児達にスキー体験や雪遊びを楽しんでほしい。初めてのボランティアでも指導体制が整っていれば子供たちも自然体験をすることができる。母子分離の時間もあり、心身の成長を促すことも期待できる。

具体的なプログラム名	主なポイント
スキー体験・雪遊び	大自然の醍醐味を味わってほしい。スキー指導者はスキー技術を向上させる為だけでなく、体験させる為の雪上介助方法を保護者やボランティアにも指導をする。
オリエンテーション	予定表の紙芝居をしたり、風船送りや手遊びや簡単なゲームをして参加者全員に連帯感をもってもらおう。スキー体験では指導者手作りの修了証をもらう。
母子分離	日常は保護者が介助しているが主にボランティアにやってもらう。母子分離とすることで子供たちに自立心が芽生え、心身の成長を促すことが期待できる。

参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 参加者全員に傷害保険をかけ、行き帰りはバスを借り上げ、トイレ休憩などは保護者、ボランティアの連携で駐車場の横断に十分注意する。行方不明時の役割担当、連絡網も配布し理解してもらおう。活動中も常に大人全員で安全確保に努める。

【健康管理】 保護者が同行するので主に保護者が管理する。ボランティアと保護者がしっかり連携をとれるようにコミュニケーションを図る。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
3月7日	7:00	全員集合地点でボランティア、保護者、バス添乗員で打ち合わせ
		バス移動中にオリエンテーション
		バス内にて昼食
	12:00	湯沢六日町スキー場到着
		スキー指導者と合流 自己紹介、指導内容の確認
	12:30	スキー体験チームと雪遊びをチームに分かれ、スキー指導者6名のもと子供たち、保護者、ボランティアも指導を受ける
	17:00	ホテルに戻り、着替え、入浴
	18:00	スキー指導者、子供、ボランティアでオリエンテーション
		スキー指導者からの手作りの「体験修了証」授与
18:45	夕食 母子分離 子供とボランティアで自由時間	
21:00	就寝準備 消灯	
3月8日	7:00	起床 朝食
	8:00	自由時間 ボランティアと雪遊びやスキー体験など
	11:00	着替え 荷造り
	12:00	湯沢六日町スキー場出発
	18:00	集合地点到着 解散

活動の成果と課題

【成果】 保護者、ボランティア、指導者の連携によりスキー、バيسスキーを装着し、時間をかけて滑ったり、保護者と離れるのが不安な子供たちもボランティアと食事、入浴、雪遊びを楽しみ母子分離の時間も充実できて心身の成長を促すことができたと思います。指導体制がしっかりしていたので初参加の子供でも安心して体験できたと思います。指導者、ボランティアの努力もあり事故もなく無事に終わって今回も充分達成感を得られました。

【課題】 苦勞するのはボランティア募集です。常に介助が必要な子供たちなので少なくとも10名以上は必要になります。スキー経験のある方がベストですが、今後はやる気のある方なら積極的にお願いしていこうと思います。また、災害時に備え各活動場所での安全確認を事前にすると感じました。



速過ぎ、止めてよ〜っ!(ロープサポート)



よくがんばりました。お疲れ様でした(修了書授与式)

団体概要

【目的】 重度の知的障がい児達の放課後や余暇活動の場を広げて充実させたいという保護者の願いから、自然体験によって子供たちの成長を促すような活動をしています。保護者だけでは限界があるので指導者やボランティアにも関わってもらうことにより活動の幅も広がり、子ども達の刺激になっています。そして母子分離もしやすくなり、子供たちの自立心が芽生えるきっかけにつながっています。

【構成】 団体構成員は知的障がい児の保護者3名(40代~50代の主婦、パート)で最近では年に1度活動しています。団体が設立したのは15年前で当時団体構成員は6~7名で(養護学校に通う子供の保護者30代~50代の主婦、パート)年4回活動していました。ボランティアと指導者も交えて年間延べ230名ほどで、春は「丸太の森ハイキング」、夏は「山中湖でキャンプ」、秋は富士山のふもとで「乗馬体験」、冬は「スキー体験」などの自然体験活動をゆめ基金の助成を受けて毎年親子参加で実施していました。構成員は子供の卒業と共に外れていく方も多く、現在に至っています。

3町村(釧路町・標茶町・鶴居村)合同青少年宿泊研修 ～釧路湿原から学ぶ絆づくりプロジェクト～

- 活動期間／7月30日(水)～8月2日(土) 3泊4日
- 活動場所／達古武オートキャンプ場、塘路元村キャンプ場
- 募集地域／釧路町内全域、標茶町内全域、鶴居村内全域
- 募集対象／小学生(3～6年生)、中学生
- 募集方法／◆チラシ(配布先:各町村全小・中学校児童生徒)
- 実施団体名／釧路町子ども会育成連絡協議会
- 構成員数／14人
- 連絡先／〒088-0692 北海道釧路郡釧路町別保1丁目1番地
TEL:0154-62-2301 FAX:0154-62-2516



達古武から塘路まで…湿原ウォーキング



大自然を満喫!釧路川で川下り

活動のねらいとポイント

釧路湿原を体感し、環境についての感受性を深め、地域を愛する心を育むと共に、次代を担うリーダーの育成を図ります。

具体的なプログラム名	主なポイント
湿原ウォーキング	達古武から塘路まで、林道を歩く活動を通して、最後までやり抜くことによる達成感を味わうとともに、自ら困難に立ち向かう姿勢を養う。
湿原川下り	普段見ることがない釧路川からの視点で釧路湿原を見つめることで、自然との共存、自然再生や自然保護についての理解を深める。
湿原外来種捕獲体験	グループごとに協力して外来種であるウチダザリガニを捕獲し、その量を競う活動を通して、釧路湿原が抱えている問題を把握する。

参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 事前下見を複数回行い、スタッフ・ボランティアが安全に関する情報共有をすると共に、各活動において専門的な知識・資格を有した指導者を配置する。各活動において、リスクマネジメントに最善を尽くす。

【健康管理】 事前に保護者から参加者の健康状態を確認し、毎朝健康チェックを行うと共に、スタッフ・ボランティアが常時健康観察を行う。救急セットの充実、救護体制の確立、AEDの設置を行う。熱中症対策として、適時水分補給ができるような体制を整える。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7月30日	10:00	達古武オートキャンプ場集合
	10:30	仲間づくりゲーム
	11:00	昼食
	11:45	テント設営
	13:15	食料計画作り・買出し
	14:30	野外炊飯
	19:30	ホタル観察
	22:00	就寝
7月31日	5:30	起床
	6:00	朝食
	7:20	テント撤収
	8:30	湿原ウォーキング※道中昼食
	13:30	テント設営
	14:30	野外炊飯
	18:30	入浴
	22:00	就寝
8月1日	5:30	起床
	6:00	朝食
	7:20	テント撤収
	8:30	湿原川下り(カヌー)
	11:30	湿原外来種捕獲体験(ザリガニ釣り)
	14:30	テント設営
	16:00	バーベキュー
	19:00	入浴
8月2日	7:00	起床
	7:30	朝食
	9:00	ピザ釜作り
	10:00	石釜ピザ作り
	12:00	昼食
	13:00	テント撤収、自由交流
	14:30	ふりかえり
	15:30	解散



ザリガニ捕獲!ハイ!チーズ

活動の成果と課題

参加者・スタッフ総勢50名を超える集団の中で、釧路湿原の貴重な自然を体感することができました。活動内容によっては、初めての体験だったという子供も多く、意義のある取組となりました。活動を通して、3町村の子供たちが絆を深め、地元の貴重な財産である釧路湿原を今後も大切にしていこうという意識を醸成することができました。また、今回参加した子供の中には、地域の行事に参加するようになった者もあり、次代を担う地域のリーダーを発掘・養成する機会にもなりました。今後は、広域で活動を継続していくとともに、より多くの参加者に直接的な体験をさせることができるようプログラムを考案していくことが必要であると感じています。



湿原をバックに記念撮影

団体概要

1981年4月、子どもの健全育成に寄与することを目的に設立。

現在は、10～60代までの男性11名、女性3名の計14名で構成されています。

釧路町内の子供を対象とした地域間交流事業として子ども縁日や冬のデイキャンプ等を企画、実施しています。また、指導者の育成、他地域との交流にも努めており、平成25年度より、標茶町・鶴居村と合同で夏季宿泊研修事業も行っています。

さらに、子ども会の下部組織として、町内における地域活動・体験活動の推進及び、まちづくりに貢献すること等を目的に、小学校4年生から中学校3年生までで構成するジュニアリーダーサークル、高校生以上で構成するシニアリーダーサークルを設立し、研修や交流等さまざまな活動を行っています。

北海道科学ボランティア養成講座

- **活動期間**／5月17日(土)～2月28日(土)
- **活動場所**／札幌市南平岸会館、札幌市コミュニティセンター
- **募集地域**／札幌市および近郊
- **募集対象**／小学生(1～6年生)、保護者、一般成人
- **募集方法**／◆チラシ(配布先:札幌市内及び近郊市町村)
- **実施団体名**／特定非営利活動法人北海道科学活動ネットワーク
- **構成員数**／6人
- **連絡先**／〒005-0005 北海道札幌市南区澄川5条3丁目3-62コーポ武田202
E-mail: info@kitakagaku.org TEL(011)802-6000 FAX (011)802-8701



活動や子どもに関する知識を学びます。



みんな真剣に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

子供たちにより充実した体験を提供できるように、ボランティアとして活動していただける方々に参加を呼びかけ、「北海道科学ボランティア養成講座」を開催します。北海道内でボランティア活動を行うための基礎的な知識や技能を身に付けていただくための講座です。講座では、指導に必要な素養、指導技術を学び、指導層の厚さと充実化を図り、北海道の科学体験活動の現場をしっかりと支えていくことをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
ボランティア活動意義	子供たちが、科学的関心・好奇心を深めるためには、体験機会を重ねることが重要である。本活動は、子供たちへ体験の場と科学へのきっかけづくりという講座とする。
科学実験指導	科学・ものづくり全般の指導、各分野の指導の特徴、安全性の知識など、実際指導する際の基礎的知識の習得を図る。
実技指導の向上	養成講座で習得した、科学実験指導技術、子供たちへの体験に必要な知識等、活動現場を研修テーマとして設定の上、子供たちへ指導実践の試みを行う。

参加者の安全対策・健康管理

1. 怪我やトラブル防止
火気、刃物、薬品等子供たちの怪我やトラブルに繋がるものは事前届出制としたり、使用方法も十分な管理を行う。
2. 会場毎の注意
活動を実施するにあたっては、活動内容、活動場所、参加する子供の人数に応じ、必要な人数の安全管理を行う。
3. 健康管理
会場内の巡視等 休憩時間・休憩室の確保、室内温度管理、救急箱の常備、救急医の確認
4. その他
参加する子どもの病気やけが等の緊急事態が発生した場合、速やかに保護者に連絡することができるように、参加する子どもの緊急連絡を行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5月17日	9:30 ～ 12:00	第1回科学ボランティア養成講座（札幌市南平岸会館） 講演 「札幌市の子どもの権利条例について」 講師 札幌市子ども未来局 子どもの権利推進課 ○指導技術講習 テーマ「万華鏡づくり・錯覚工作」○活動の紹介・あらかしコミュニケーション
9月13日	9:30 ～ 12:00	第2回科学ボランティア養成講座（札幌市南平岸会館） 開会・前回講座のおさらいと講座のすすめ方 講演 「食品中の添加物や農薬の分析について」 講師 札幌市保健福祉局生活科学課 ○指導技術講習 テーマ「クルクルダンスの工作」○活動の紹介・あらかしコミュニケーション
12月13日	9:30 ～ 14:00	第3回科学ボランティア養成講座（札幌市篠路コミュニティセンター） 講演 「北海道の子どもの科学普及活動の始まり」○指導技術講習「吹きゴマの工作・水晶とガラスの見分け方・クワガタの観察と採集について」 ○活動の紹介・あらかし コミュニケーション ○実践指導講習(子どもの参加)・実施テーマ 懐中電灯、スライム、声を刻もう、プラトンポ、偏光板で遊ぼう等17テーマ
2月28日	9:30 ～ 14:00	第4回科学ボランティア養成講座（札幌市南平岸会館） 開会・連絡事項 講演 「動物園の新しい役割」 札幌市円山動物園飼育展示課 ○指導技術講習 テーマ「クリップモーターの工作」 ○活動の紹介・あらかし ○コミュニケーション ○実践指導講習 (子どもの参加)実施テーマ 懐中電灯スライム 声を刻もう 風船ロケット 声コプター 水晶とガラスのみわけ方 等13テーマ

活動の成果と課題

私たちは、子供の健全育成に関わる社会的な様々な課題を持ち合わせています。本講座では、科学ボランティアの意義や役割の成果を理解するとともに、それぞれの講座ではボランティア活動に必要な指導技術のテーマの紹介と工作を通じた子供の科学体験活動の理解と意欲を高めています。また、今後取り組んでいく内容に基づき活動現場の実践指導講座をあわせて行いました。4回の講座を通じて活動の心構え、準備、運営、指導といった科学ボランティアの基本的なことを学べたと思います。また、ボランティア講座参加者の募集広報にかかる予算や時間が限られている中、適切な参加者確保に必要な広報手段とタイミングがより効果的であるのか、いつも大きな課題となっています。



子どもへ伝える前に実習講座



科学のコツを上手に教えます。

団体概要

北海道理科教員の有志により、1993年に「青少年のための科学の祭典北海道大会」を開催しました。

1994年北海道科学の祭典実行委員会を結成後、「青少年のための科学の祭典」などの活動を北海道各地で実施しています。2007年にNPO法人へ組織変更し活動実績としては、2008年道新文化センターで科学教室、2009年経済産業省「第三回日本ものづくり大賞優秀賞」受賞、2011年全国少年少女発明クラブ作品展、2012年北海道科学ボランティア養成講座、2013年親子科学チャレンジ教室を開催し、様々な科学工作や実験を通じて広い地域で子供たちに科学を伝えていくことを本団体活動の特徴としています。

身につける技術と思いやり つなガール♥

- **活動期間**／平成27年3月28日(土)～平成27年3月29日(日) 1泊2日
- **活動場所**／明石市立少年自然の家
- **募集地域**／加古郡播磨町を中心とした近隣の市町村
- **募集対象**／小学生(1～6年生)、中学生、高校生
- **募集方法**／◆チラシ(配布先:播磨町中央公民館・播磨町内各コミセン4ヶ所・播磨町図書館)
◆ポスター(掲示先:播磨町中央公民館・播磨町内各コミセン4ヶ所・播磨町図書館・駅掲示板・文具店)
◆広報誌(広報はりま)
- **実施団体名**／ガールスカウト兵庫県第26団
- **構成員数**／10人
- **連絡先**／ガールスカウト兵庫県第26団 団委員長 平郡 眞弓 TEL&FAX 079-435-0122



万華鏡づくり



野外料理(カートンドッグ)

活動のねらいとポイント

様々な技術を学ぶことにより、対応できる力を身につける。仲間と過ごすことで思いやりや協調性を身につけ、自立心を育む。

具体的なプログラム名	主なポイント
万華鏡づくり	万華鏡の仕組みを知る。手作りすることで集中力を身につける。オリジナルの万華鏡を作る。
ロープワーク・救急法	ロープや三角巾を使う技術を学ぶことで、様々な状況に対応できる力を身につける。
野外料理	刃物や火の扱いを学ぶ。

参加者の安全対策・健康管理

事前にアレルギーの有無などを確認。保険の加入。また説明会で配布した健康カードに健康状態を記入し、健康保険証のコピーを添付して当日提出してもらう。野外料理では包丁や火を使うので十分注意し、大人が付き添う。施設から駅までの往復、車道に気を付ける。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
3月28日	11:30	播磨町駅 集合・出発
	13:00	入所式・オリエンテーション 万華鏡づくり
	17:00	夕食
	18:00	入浴
	19:00	ロープワーク・救急法
	22:00	就寝
3月29日	6:30	起床
	7:00	朝のつどい
	7:30	朝食（野外料理）
	11:00	点検
	11:30	退所式
	12:00	昼食 レクレーションタイム
	14:50	播磨町駅 解散

活動の成果と課題

【成果】 子供たちそれぞれに役割を与えることにより責任感を持つことができ、自己表現や仲間意識を育むことができたと思います。万華鏡づくりでは様々な年代を混ぜてグループ分けをしたことで、お互いに協力し合う姿勢を見ることができました。二日目は雨の中でしたが、野外料理も行うことができました。昼からの海岸散歩は室内のレクレーションに変更となりましたが、年長スカウトによるゲームやソングで楽しく過ごすことができました。

宿泊が初めてということで不安に思われた保護者の方もいらっしゃいましたが、子供たちは「帰りたくない」「今度はいつ?」と、楽しんでいただようでした。

【課題】 雨天時のプログラムについて詳細を決めておくべきだった。

下見に行っていないスタッフのために、最終の打ち合わせを十分に行うべきであった。

今後も地域の子供たちも含めて活動する機会を持っていきたい。



ソング 大きな声で歌おう!!



万華鏡 出来上がりが楽しみです!!

団体概要

【目的】 「自己開発」「人とのまじわり」「自然とともに」の3つのポイントを中心に、活動を進めています。学校での組編成や勉強と違い、異なった年齢の集団の中でゲームをするように楽しみながら、体験を通して様々なことを身につけます。地域社会の一員として自分で考え行動することにより、自立心や責任感、積極性、集中力を育みます。

【構成】 就学1年前から高校生相当の年齢までの少女会員、及び18歳以上の成人会員。

みんなでチャレンジ 友だちの輪 「体験の風をおこそう運動」

- 活動期間／8月24日(日)～12月21日(日)
- 活動場所／大山崎町鏡田第二公園(8/24)、大山崎集会所(12/21) ■募集地域／大山崎町内区域
- 募集対象／未就学児(4～6歳)、小学生(1～6年生)、中学生、保護者
- 募集方法／◆チラシ(配布先:大山崎小学校、鏡田子ども会など)
◆ポスター(掲示先:地域役員住宅玄関や個人商店など)
◆広報誌(広報おおやまざき) ◆その他(子ども会ニュース等に掲載)
- 実施団体名／大山崎自然体験クラブ ■構成員数／8人
- 連絡先／アドレス:sanaeb@iris.eonet.ne.jp 事務担当 江畑早苗



もちつき



丸太切り

活動のねらいとポイント

子供たちに異年齢の交流活動の機会を提供し、社会性や豊かな人間性を養う。地域コミュニティを充実させることで、安心できる環境づくりを促進する。

具体的なプログラム名	主なポイント
丸太切り大会と、自然素材を活用したものづくり	親子で協働して丸太切りを体験し、決められた時間内で何枚切れるかを競う。木の実などの自然素材を使って、創造性豊かな作品作りを楽しむ。
もちつきと飛行機飛ばし	地域のお年寄りの指導を受けて餅をつき、つきたての餅を食べながら昔の生活の話を聞く。牛乳パックを使って飛行機を作り、飛ばして競う。

参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】餅つきではマスク、三角巾、手袋を使う等、衛生面に充分配慮する。工具等の使用については指導者が指導法の手本を示し使用させる。指導者には消防署等が実施する応急手当法講習への参加を奨励する。参加者にはルールを守ることを徹底させる。

【健康管理】参加者に自前の「健康調査表」で自己点検を行って頂く。活動時はグループを編成し、グループごとに指導者を配置して常に参加者の観察を行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8月24日	9:00	指導者、スタッフ集合
	9:45	受付、健康状態確認、説明等
	10:00	開会式
	10:10	体験コーナー開設、丸太切りと自然素材を活用した作品づくり
	14:30	後片付け
	14:50	閉会式
	15:00	会場清掃、指導者・スタッフによる反省会
	16:00	解散
12月21日	8:30	指導者・スタッフ集合
	9:45	受付、健康状態確認、説明等
	10:00	開会式
	10:10	体験コーナー開設、餅つき、遊びリンピック
	13:50	ふりかえり、閉会式
	14:00	会場清掃、指導者・スタッフによる反省会
	16:00	解散



自然素材ものづくり風景

活動の成果と課題

活動中は、一緒に物づくりをしたり作品を見せ合ったりすることで知らない子供同士が仲良くなり、また親同士もお喋りが弾んだり、笑顔の行き交うひとときとなり、地域コミュニティに貢献できたことを肌で実感できました。

おもちゃ作りでは、どうやったらよく飛ぶか、シニアの指導者が昔ながらのコツと知恵を教えてください、真剣に聞いている子供たちの表情が印象的でした。

2つの活動を通し、学校とは違うもうひとつの教室「見えない学力」を育てることができました。また、協調性、自立性、豊かな人間性など”生きる力”を育むために、地域での交流や体験を積むことが重要であり、そのための活動を推進していくことが団体として求められていることを再認識しました。



自然素材ものづくり風景

団体概要

【目的】 主に大山崎町域(一部長岡京市、島本町含む)の子供を対象として「自然体験活動」「木工ものづくり」活動の企画・運営を行い、子供の健全育成に努めています。

【構成】 ボランティア団体として会長以下、6名の団体構成員で活動しています。活動の運営及び指導者として支援・協力を得られるスタッフ要員は約40名を有します。年齢は30代から70代、職業は大工を始め幼稚園教員・小学校元教員・主婦など幅広く構成しています。

【設立の背景】 平成22年7月、大山崎小学校区域の自治会連合会の自主防災組織設立と同時に、共助できる地域づくりを目指すため、地域を巻き込んで何らかの活動が必要だということになりました。そこで地域の住民に呼びかけ、誰でも参加できる「自然素材のものづくり」「縄跳び体験」「ものしりゲーム」の体験ブースを設け活動したのが発足のきっかけです。

体験活動 遠州灘海岸におけるビーチクリーンアップ

- 活動期間／5月11日(日)～9月21日(日)
- 活動場所／遠州灘浜松海岸
- 募集地域／静岡県
- 募集対象／小学生、中学生、保護者、一般成人
- 募集方法／◆チラシ(配布先:市町村の教育委員会・マスコミ・観察会参加者／各種団体)
- 実施団体名／特定非営利活動法人 サンクチュアリエヌピーオー ■構成員数／33人
- 連絡先／〒433-8123 浜松市中区幸2-17-9



ビーチクリーン1



回収したごみは、きちんと分別

活動のねらいとポイント

子供時代にゴミが野生生物に及ぼす悪影響を学び、「ゴミを捨てない」という生活習慣と常識力を身につける。

具体的なプログラム名	主なポイント
分別ゴミ拾い	海岸環境の現状を把握しながら、裸足で歩けるようなきれいな砂浜を目指す。さらに、野生生物が安全に繁殖できる自然環境を取り戻し保護する。
海岸環境の観察	海岸は、生物多様性に富む。ゴミ拾いをしながら漂着生物や海浜植物、スナガニ、コアジサシなどの海鳥を観察し、豊かな感性を育む。
ゴミについて考える	ゴミを拾うことにより、どんな種類のゴミがどこから来ているかを知る。様々な状況を写真記録で見て、どんな生活様式が望ましいかを参加者同士で話し合う。

参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 離岸流が発生する海岸での活動のため、海を熟知するスタッフを随所に配置し、事故のないよう留意する。

【健康管理】 屋外での活動であるため、熱中症や日射病に注意し水分補給の呼びかけを行うなど、参加者の体調に十分留意する。また、当法人のサンクチュアリネイチャーセンターが海岸近くにあり、職員が常駐している。万が一の場合には迅速な緊急連絡が出来、安静にする部屋や救急箱を常備しているため、緊急時の対応が出来る。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5月11日	7:00	担当者同士の打合せ、注意事項を確認し合う。
8月24日	8:30	集合・受付は中田島砂丘の入り口
9月21日	9:00	開始：ビーチクリーンアップの説明と注意
	9:10	ビーチクリーンアップおよび自然観察の開始。分別ゴミ拾い。
	9:20	海岸は、海浜植物が花盛りの季節。海岸を歩きながら、植物観察やバードウォッチングなどを平行して行う。
	11:30	片付け・終了
	11:45	ネイチャーセンターで映像を見ながらクリーンアップを行う意義、ゴミが野生生物に及ぼす悪影響、ゴミの種類、どこから来たゴミかなどについてレクチャーし、意見交換をする。 また、海岸ゴミの中でもポイ捨てされた多くの飲料水空容器が目立つ。収集回収対策としてのデポジット制度の取り組みについても解説する。
12:30	終了：解散	

活動の成果と課題

遠州灘海岸は、絶滅が危ぶまれる海鳥コアジサシやアカウミガメをはじめ多くの野生生物の繁殖地です。一方、年間100万人を超える観光客や釣り人、サーファーが訪れる観光地でもあります。海岸は、漂着するゴミやポイ捨てゴミで慢性的に汚れているため、貴重な野生生物の繁殖地保護には、ビーチクリーンアップが欠かせません。ビーチクリーンアップの必要性は、一般公開で行うアカウミガメの産卵調査や子ガメの観察（放流）会時に、ウミガメがゴミを誤食して命を落とすことなどを28年に亘り伝えてきました。今では、市民や企業が自主的に行うビーチクリーンアップも増え、年間50回以上も実施されるようになり、社会・市民意識の変革などの効果が現れてきています。



ビーチクリーン横断幕



ビーチクリーン2

団体概要

1985年、浜松市の馬込川河口周辺の自然と身近に生息する野生生物保護のためにサンクチュアリジャパンを設立しました。活動が実り、その後、河口はバードサンクチュアリとなり守られています。1986年、遠州灘海岸でアカウミガメの産卵地を発見、翌年には太平洋最大級のコアジサシのコロニーを相次いで発見し、希少野生生物の保護活動を開始しました。活動を通して海岸環境保護の必要性を痛感し、海岸法の改正に着手して1999年に海岸法が改正されました。2000年に、活動の継続性を高めるため、NPO法人サンクチュアリエヌピーオーを設立。構成員は、法人職員とボランティアで構成されています。活動歴は30年に亘り、参加者は全年齢層に及びます。

活動は、砂浜で繁殖するアカウミガメやコアジサシなどの野生生物の繁殖調査や自然観察会を実施しており、1992年には、ジュニアレンジャー制度を発足させ、次世代を担う子供たちの育成に努めています。1995年から継続する「親子のウミガメ教室」の実施や水質や気象などの環境調査、野生生物の繁殖調査を通して環境保全を考える、体験型感動教育に力を入れています。また、海岸浸食が激しい砂浜で、繁殖環境を守るための砂浜回復事業を実施しています。

みんなでワイワイさんあいイベント

- 活動期間／5月8日(木)～9月14日(日) ■活動場所／豊中市服部西町 豊中市立ふれあい緑地
- 募集地域／豊中市 ■募集対象／小学生(1～6年生)、中学生、高校生、保護者、一般成人
- 募集方法／◆チラシ(配布先:豊中市、市立小中学校、公共施設)
◆ポスター(掲示先:豊中市役所、市立小中学校、公共施設、地域商店街など)
◆その他(当法人広報紙など)
- 実施団体名／特定非営利活動法人ハニー・ビー ■構成員数／3人
- 連絡先／豊中市服部豊町1-4-25ソフィア服部202号
電話06-6152-7389 FAX06-6152-7348 Email:info@honeybe.jp



広報活動市役所 教育長にチラシを手渡し、広報活動



セレモニー「今日、一日宜しくお願いします」

活動のねらいとポイント

世代間交流や地域カアップ活性化に繋げるべく、さんあい(であい、しりあい、わかりあい) イベントを開催し、顔のみえる地域づくりを目指す。

具体的なプログラム名	主なポイント
こども店長体験	実際の店舗や各ブースなどで職場体験をし、様々な人々との関わり方やマナー、ルールを学ぶ。
広報活動	サポーターと共にイベントの広報活動を企画立案し、市役所において実際に広報活動を実行する。
こども協議会運営	子供たちは、構成員、サポーターと共にイベントを企画立案することも協議会に加わり、自らのやりたいことを建設的に伝えることを習得する。

参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 障がいのある子供の参加においては前以て受付をし、情報を共有して担当外であってもサポート体制、対策を講じる。傷害保険にも加入し万一に備える。

【健康管理】 健康情報だけでなく障がい特性なども考慮して情報共有をする。実施当日は医務室を整備し看護師を待機させる。AED、救急セットを準備。また緊急対応に備えて緊急連絡網、近隣の病院、医院にも協力要請をした。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5月8日	17時～18時	第1回こども協議会 構成員+支援がサポート体制をとりながら今後の方針を協議
6月19日	16時～17時	第2回こども協議会 チラシ、ポスターの掲示場所、配布先の検討、当日のブースについて協議
8月9日	14時～16時	第3回こども協議会 買出しとブース詳細など決定
9月1日	16時～17時	広報活動 豊中市役所を訪問 構成員2名、サポーター1名、子供たち7名
9月13日	14時～16時	前日準備 会場設営、設置、ポスター掲示、看板作り、看板設置、会場案内図、清掃など
9月14日	8時～20時	8:00 構成員集合
		8:30 スタッフ集合
		9:00 ボランティア集合、こども協議会メンバー集合点呼
		9:15 挨拶、諸注意、確認など
		9:30 本部、受付準備など
		10:00 食材運び込み、ゲームコーナー各ブース出店準備
		10:45 受付、MC補助配置
		11:00～16:00 イベント開催
		16:10 イベント終了の挨拶、ブースの撤去など
		17:00 一斉清掃作業
		17:10 こども協議会メンバー解散、ボランティア解散
		17:40 スタッフ解散
20:00 構成員、会場見回り、解散		

活動の成果と課題

今年度の活動では周辺地域の学校にチラシを配布し、更に子供たちと共に市役所へ広報活動をしに行くなど、広報活動に力を入れました。その結果、昨年度よりも大幅に来場者が増え、また市長も子供たちの活動、地域の方々との関わり、ふれあい、活気のある活動を目にし喜ばれていました。来場者が増えたお陰でこども店長のお仕事も増え、様々な年代の方々との交流が持てた事で、大変意味のある仕事体験になりました。また、新たに参加の団体や地域の学生さんなどと協働できる関係を構築できたことは、顔の見える地域づくりに大いに役立つものと思います。



こども太鼓集団の演奏



こども店長、ミルクせんべいを作っています。

団体概要

ハニー・ビーは障がいのある子供たちと保護者の自立・社会参加を様々な形でサポートする団体です。ハニー・ビーが提供するサービスは子供たち一人ひとりの個性と社会に貢献できる力を見出し、自信や自己肯定感を育てていくことを目的としています。子供たちは日々の体験を通じて学び、成長していきます。それは、確かに直ぐに役立つことだけでなく、10年後の子供たちの礎を築いていくものと信じています。子供たちが体験を通して自信と自己肯定感を持ち、社会の一員として成長し、地域で『共に生きていく』ハニー・ビーにそのお手伝いをさせてください。

しゅうなん子どもドリームスクール2014

- 活動期間／7月28日(月)～ 8月3日(日) ■活動場所／周南市市民館、徳山保健センター及び各事業所
- 募集地域／周南市全域 ■募集対象／小学生(4～6年生)、中学生
- 募集方法／◆チラシ(配布先:周南市内の小中学校)
- 実施団体名／ドリームスクール実行委員会 ■構成員数／7人
- 連絡先／〒745-0825 山口県周南市秋月1丁目2-3 Mail dream_school_shunan@yahoo.co.jp



地元企業OBが指導する「徳山湾の立体模型づくり」



若い住職さんからお寺での修行を学ぶ「お寺ってなあに？」

活動のねらいとポイント

子供たちが、指導者や同世代との様々な体験を通じて「作る喜び」「本物にふれる」「夢をもつ」ことの大切さを知り、好きなことや興味のあることに、自らチャレンジしていく力を身に付ける。

具体的なプログラム名	主なポイント
職業体験プログラム	ものづくりや指導者との交流を通して、職業への理解を深め、指導者の技術やものづくりへのこだわりを体験的に学ぶ。
科学体験・ものづくり体験プログラム	指導者からの課題や質問に個人やグループで考え、ものづくりのプロセスでの気づきや発見に主眼を置いたアクティビティーを各講座の内容に応じて実施。
交流体験プログラム	参加者同士や指導者と交流するアクティビティーを通じて、参加者自らが積極的に体験を通して学べるプログラムを実施。

参加者の安全対策・健康管理

- ・事前に指導者と担当スタッフが打合せを行う。また、運営当日は、開催本部を設置し各講座のスタッフと連携を図り、緊急対応及び参加者の安全対策を指揮する。
- ・当日の受付時に、本人及び保護者等から健康状態の確認を行うとともに講座開催中は、スタッフが適時、健康観察を行う。
- ・開催本部には、教員OB、保健師又は看護師資格者が常駐する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7月28日	10:00 ～ 15:30	①韓国料理と伝統的な遊びユンノリを楽しもう ②周南産小麦でパンづくり ③真夏のふくまるごと発見 ④ピエロとタコやヘリウムで浮くイカを作ろう
7月29日	10:00 ～ 16:00	①草木染め ②徳山湾の立体模型作り ③オリジナルTシャツを作ろう ④未来を夢みて!可愛いお嫁さんって
7月30日	8:30 ～ 15:00	①お寺ってなあに? ②ピースで作ろう!アクセサリー ③ループアートひも手芸で小物作り
7月31日	10:00 ～ 15:00	①オリジナル万華鏡づくりに挑戦 ②押し花を使ってペンダント作り ③こあって、どんどこ? ④特技にしよう☆キラキラネイル
8月1日	10:00 ～ 15:00	①あなたもシェフに! ②デザイン教室「キミもデザイナー」 ③マンガ教室「キミもマンガ家」
8月2日	10:00 ～ 15:30	①アロマテラピー手作り教室 ②トントン、ギコギコ!大工さんにチャレンジ!! ③オリジナルのLEDを作ろう ④錬金術とは?科学おもしろ実験@めっき編 ⑤取材を体験!記事を書いてみよう ⑥キッズ・ツールペイント
8月3日	10:00 ～ 15:30	①素敵なコースージュを作りましょう ②大学教授と調査研究体験!広めよう禁煙 ③キャッチフレーズを考えよう ④あなたもマジシャン

活動の成果と課題

参加した子供たちのアンケートでは、「期待以上だった」「期待通りだった」と回答した子供が全体の約9割を超え、夢の実現に向けて、自分が好きなこと、やりたいことにチャレンジする体験活動を実践できたと思います。13回目となる今年度は、32講座に延べ327名の子供が参加しましたが、毎年参加する子供（リピーター）も多く、夏休みの地域行事として定着しています。しかしながら、講座内容のマンネリ化やスタッフ不足など、運営面の課題もあります。少子化が進む中、今後は参加者集めも大きな課題となるため、現状を維持するだけでなく、指導者、スタッフの人材発掘や各講座のレベルアップも大きな課題です。



プロの大工さんから学ぶ「トントンギコギコ!大工さんにチャレンジ!」



プロの漫画家から学ぶ「キミもマンガ家」

団体概要

- ・平成14年度からの完全学校週5日制を契機に、子供の体験活動の機会と場づくりを支える市民のネットワークづくりを目的に発足しました。
- ・平成15年度からは、毎年「子どもゆめ基金」の助成を受け、ドリームスクールを開催し、今年度までの13年間で、延べ4,836名の子供が参加しました。
- ・団体構成員は、発足当初からのメンバーである40～50代が中心となっています。（女性5名：男性2名）

本の世界を楽しむ子どもBOOKステーション

- 活動期間／6月21日(土)～3月27日(金)
- 活動場所／市川市内公民館、地域ふれあい館、鑑賞植物園及び近隣文化施設（江戸川河川敷、深川資料館等）
- 募集地域／市川市、近隣の町 ■募集対象／未就学児（4～6歳）、小学生（1～6年生）、中学生、高校生、保護者
- 募集方法／◆チラシ（配布先:実施会場近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校、子ども館、公民館、図書館、読み聞かせ団体等）
◆ポスター（掲示先:実施会場近隣の店舗、自治会の掲示板など）
- 実施団体名／特定非営利活動法人 市川子ども文化ステーション ■構成員数／46人
- 連絡先／〒272-0137 千葉県市川市福栄1-3-1-101 TEL/FAX 047-395-7670
E-mail:i_ccs@icnet.ne.jp http://kodomobst.org/



チームで絵本を広げて答探し



野良猫ツアー～本を片手に野原へ

活動のねらいとポイント

ゲーム世代の子供たちが、様々なジャンルの本や異年齢の人との交流を通し、色々な感情、自然や生命の面白さに出会い、生活感覚のある活動をすることで、自己表現や五感で楽しさを体験する機会を作ります。

具体的なプログラム名	主なポイント
自然の不思議、科学の目	自然体験や遊び体験の豊富な地域の指導者やスタッフによる、身近だが普段は気付かない自然観察や町探検などを通し、自然・科学の本、歴史や冒険の本へのアプローチをする。
幼児への読み聞かせ	小学生、中学生のお兄さんお姉さんが、幼児に絵本や紙芝居などを読み聞かせすることで、絵本の良さを再認識し、お互いの自己肯定感を育む。
本の世界を料理しよう	心に残っているシーンや内容を話し合い、その本に関する料理をみんなで作って食べる企画で、普段本に関心のない子供たちを巻き込むきっかけにする。

参加者の安全対策・健康管理

年間を通した活動であるため、団体員やスタッフ、指導者が、子供の安全面に配慮し、手洗い、うがいの奨励や、熱中症予防のための水分摂取、休憩の取り方などの声かけをする。親子での参加が多いため、親への安全対策の確認を徹底する。幼児の参加者に対しては、見守るスタッフを配置する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6月21日	10:00 ～ 14:00	「ともだちやなぞなぞツアー」絵本のシリーズを基にした謎を解きながらオリエンテーリング。異年齢でチームを作り、本を読みながら謎を解く。絵本の読み語りや、ママたちのブックトーク。
7月19日	14:00 ～ 17:00	「科学の本de自然ウォッチ・タッチ①」講師による身近な物（風船、はさみ、紐、フラフープ等）を使った科学の実験。視野を変えるユニークな本「ZOOM」（ズーム）を使ったゲーム。
7月26日	14:00 ～ 17:00	「科学の本de自然ウォッチ・タッチ②」講師による自然の中での様々なネイチャーゲームを通し、生き物や風、木、音、肌触りなど五感で自然に接する体験。生き物や自然の本の紹介。
8月2日	14:00 ～ 17:00	「絵本de親子クッキング」室内で、小中学生による読み聞かせや、幼児と遊びの交流。絵本「なつのおとすれ」を基に計画したそうめん流し。
8月23日	14:00 ～ 17:00	「科学の本de自然ウォッチ・タッチ③」液体の探検がテーマで、色水実験、ゲーム形式での水滴観察、瓶の中の海作りという科学教室のプログラムを体験。科学絵本や写真集の紹介。
8月24日	10:00 ～ 13:00	「科学の本de自然ウォッチ・タッチ④」江戸川の泥の干潟で生き物観察とハゼ釣り体験。事前、事後に見た科学の本や絵本の世界そのものの生き物や食物連鎖の世界を体験。
10月18日	14:00 ～ 17:00	「絵本de親子クッキング」小学生による「ぐりとくら」「ばばあちゃん」シリーズの読み聞かせや紙芝居で幼児と交流。その後自分たちでカステラ作り挑戦。
11月30日	10:00 ～ 13:00	「ルドルフとイッパイアッテナが案内するのらねこツアー」物語の舞台である江戸川に遠足。異年齢チームを作り、作品にちなんだクイズラリーや、猫にちなんだ遊びなどで交流を図る。
1月24日	10:00 ～ 12:00	「0歳から大人までみんなで楽しむ演奏会～お話をプラスバンドの音に乗せて～」体育館にて市内のママさんプラスの演奏会。音楽と冬の絵本コーナー。最後は体を動かす大交流会。
2月7日	10:00 ～ 12:00	「絵本de元気～親子遊びで風邪を吹き飛ばそう～」講師による、親子で体を動かす遊び体験や身体の不思議・風邪予防に関わる絵本の読み聞かせ。親には性教育関係の絵本も紹介。
2月11日	10:00 ～ 15:00	「ズッコケ三人組deタイムスリップ」シリーズ中の時間漂流記にちなんで親子で深川江戸資料館へ遠足。自分の好きなズッコケシリーズの紹介。本にちなんだクイズを解きながら見学。
3月27日	10:00 ～ 15:00	「絵本de遊ぼう」講師による絵本の読み語りと遊び。午後は、高学年が料理の絵本を参考にクレープを焼いて低学年や幼児にプレゼントして交流。



お姉さんたちの読み聞かせ

活動の成果と課題

科学の講師との出会いや遠足など、普段体験しない場面では、子供も親も驚きや感動があり、初めての本を手にとる機会となりました。本や遊びがきっかけでコミュニケーションが深まり、家族で参加した人も、家族以外の子供や大人と接する機会となり、共に楽しい時間を作り合うという体験ができました。異年齢の子供たちが集まると、年上から年下の子へ思いやりある行動や読み聞かせが生まれました。地元で様々な活動をする人達とつながることで、子供がゲームから離れ、人と交わったり、本を手にしたり、自ら発見し夢中になり心が動く時間が作れたことが大きな成果です。

休日でも忙しくなっている小学生の時間に合わせ、異年齢の子供たちが集まり易い日程設定が課題ですが、その重要性を一層感じました。



科学の本de自然ウォッチ・タッチ～緑の中で命の不思議を感じる

団体概要

子供の成長にとって、自然、芸術、あそび、人との関わり合いから得られる生の体験や感動を重ねていくことが大切と考え、1983年9月に任意団体市川おやこ劇場として発足し地域の子供たちと活動をつくってきました。2001年4月に千葉県より認証を受け、特定非営利活動法人を設立。活動が市民にわかりやすいようにと、2006年9月に名称変更をしました。市川子ども文化ステーションは、「子どものための演劇や芸能、音楽などの良質な芸術文化に出会う機会をつくる」「異年齢での遊び等様々な体験を通して子どもたちの友情と自主性、創造性を育む」「地域みんなで関わり子育てが楽しくなるための支援」活動を続けています。2003年から実施している「子どもがつくるまち・ミニいちかわ」は、毎年約5000人の参加者があり、子ども参画の事業として全国から注目されています。幼児から高校生、大学生、大人と幅広い年齢層が、互いに交流しながら活動しています。子供をサポートする大人には、20代から50代の子育て世代の女性が多いです。

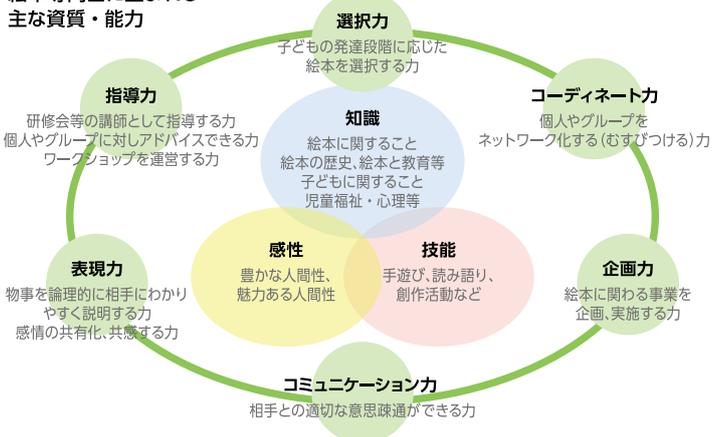
絵本専門士養成講座

絵本専門士（絵本のスペシャリスト）とは

絵本のメディアの特性やさまざまな可能性をよく理解し、幅広い知識と教養を備え、絵本の魅力を表現し伝える技能を持ち、子供の好奇心と生きる力を引き出す絵本に関するスペシャリストです。

絵本の知識に秀でた絵本専門士は、絵本に関する総合プロデュース力を身に付け、子供のみならず大人に対しても絵本の普及をめざす企画を実施し、それを指導する役割を担うことが期待されます。

絵本専門士に望まれる
主な資質・能力



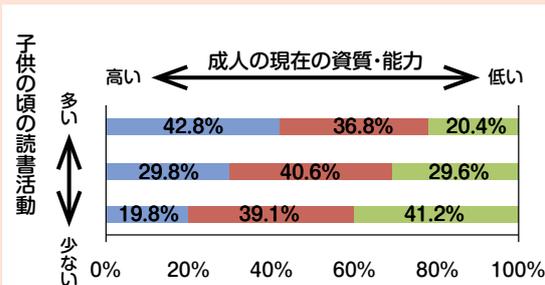
『絵本専門士』養成制度の創設

子供の読書活動については、家庭、地域及び学校等における取組や環境の整備が進んでいます。一方で、1か月に1冊も本を読まない子供の割合は依然として高く、「子ども読書活動推進計画」の策定状況や公立図書館の設置状況等の自治体における取組については、地域間の差が顕著となるなど、子供の読書活動及びその推進体制に課題も見られるところです。

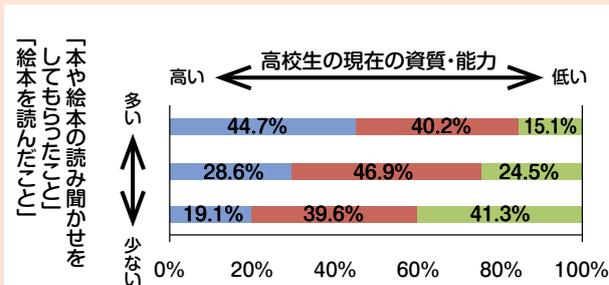
また、読書活動が子供の成長に及ぼす影響については、国立青少年教育振興機構の「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書」（平成25年2月）において、子供の頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの意識・能力が高いというデータが示されています。

このような子供の読書に係る現状等を踏まえ、平成26年2月、絵本専門士養成制度準備委員会（現絵本専門士委員会）において、読書に関する専門的知識や実践力をもった指導者を養成することについて提言がなされました。

子供の頃の読書活動と現在の意識・能力（成人）



子供の頃の読書活動と現在の意識・能力（高校生）



出典:国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書」（平成25年2月）

絵本の魅力と可能性を伝えるスペシャリスト

絵本専門士養成講座

絵本専門士養成講座は、絵本専門士委員会が策定するカリキュラムと修了課題により構成されます。

カリキュラムは、絵本に関する事業の企画・実施や指導などを行う絵本専門士として備えるべき能力を修得させるために必要な内容を、十分に盛り込んだものとしています。具体的には、絵本や子供に関する知識、おはなし会やワークショップを運営する技能を身に付け、豊かな感性を育むことを目的とし、50時間以上の授業時間を確保することとしています。また、絵本に関わる多様な領域の専門家や実践家を講師とし、講義、演習等の様々な形態で、少人数の受講者に密度の高い授業を実施することを特長としています。修了課題は、全ての授業を受講した後、絵本専門士として必要な資質・能力を備えているかどうか確認するため、レポート等の方法で実施されます。

授業の履修結果と修了課題の可否を併せて、絵本専門士の認定について審査します。

受講資格 ◆定員60名

- 子供や絵本に関連のある資格を有する者
- 絵本に関わる実務について、原則として3年以上の経験がある者
- 絵本に関わる活動に携わり、原則として3年以上の経験がある者
- 絵本や児童文学について研究している者
もしくは同等の資格、実務経験(勤務経験)を有する者

実施会場

国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

受講料

50,000円

絵本専門士養成講座カリキュラム骨子 (第2期)

分野	科目	授業数
知識	絵本論	5
	知っておきたい絵本	3
	絵本と出会う	3
技能	絵本の世界を広げる技術	3
	絵本を紹介する技術	3
	おはなし会の技術	2
感性	絵本の持つ力	1
	心に寄り添う絵本	1
	絵本と空間	1
	子どもの心をとらえるもの	1
	大人の心を豊かにする絵本	1
	ホスピタリティに学ぶ	1
	絵本が生まれる現場	2
	オリエンテーション	1
ディスカッション	2	
合計		30

【第2期】

定員：60名 授業：30コマ(50.5時間)

※1授業は90~120分



絵本専門士養成講座に関するお問い合わせ先

絵本専門士委員会事務局(国立青少年教育振興機構 教育事業部事業課事業係)

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL: 03-6407-7685 FAX: 03-6407-7699

読書活動支援ソフト「本の海大冒険」

- 教材名／読書活動支援ソフト「本の海大冒険」
- 団体名／一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- 担当者連絡先／〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1
大阪府立中央図書館内
TEL 06-6744-0581
FAX 06-6744-0582
URL <http://www.iiclo.or.jp/>
E-mail office@iiclo.or.jp
- 教材の入手先／<http://www.justice.co.jp/iiclo/>

教材利用のポイント

1. パソコンのみでなく、タブレット版でもサイトを見て遊んだり、本を選んだりすることができます。
2. 佐々木マキの絵本のキャラクターをガイド役にゲームを楽しむと最後におすすめの本が出てきます。
3. 書名、著者名、思いついたことばから本を探ることができます。
4. 作家やキャラクター、テーマから本の楽しさを知るコーナーがあります。



「本の海大冒険」のスタート画面。
佐々木マキさんの絵本「ムッシュ・ムニエルをしょうかいします」と「ねむいねむいねずみ」のキャラクターがナビゲーターです。



高学年用のゲームのスタート画面。4種類の入口があります。

ゲームを楽しんだ後、最後におすすめの本が出てくる画面。表紙画像、あらすじ、著者が表示されます。



教材の概要

I 教材開発の背景

「本の海大冒険」は平成15年度子どもゆめ基金助成活動としてサイトを立ち上げ、以来、子供向けの図書検索、および読書活動サイトとして人気を博してきました。

本開発では、新しい本の情報や作家、キャラクター情報の更新とともに、タブレット版でも使用可能な規格へと変更を行い、サイトを充実・発展させました。

II 利用対象

小学生以上、読書活動を行っている大人

III 内容（コンテンツの名称や使い方等）

サイト名は「本の海大冒険」。低学年と高学年で入口が異なり、低学年はねむいねむいねずみ、高学年はムッシュ・ムニエル(佐々木マキの絵本から引用)がガイド役。検索結果も異なります。

●ゲーム「本の海大冒険」は「へんしんマント」（先生、お父さん、お母さんなど人物）「スペースチェンジャー」（世界地図の中から地域）「もしもしカプセル」（クマ、虫など動物や生き物）「タイムチェンジャー」（古代、江戸時代など時代）を選んで、クイズに答え、最後におすすめの本が出てくる内容です。

●「本をさがす」：書名、著者、思いついたことば、独自件名一覧、NDC一覧（日本十進分類法）から本をさがすことが可能です。あらすじ、本の表紙の画像が提示されます。

●「本へのとびら」：「キャラクターのとびら」「作家さんのとびら」「テーマのとびら」「新しい本のとびら」「おすすめのとびら」（読者からのおすすめ文を掲載）。

●「自分の部屋」「おすすめを書く」：自分の好きな本を登録したり、読んだ本についておすすめ文を書いたりすることが可能です。

*家庭や公共図書館、学校図書館等で広く使われています。

団体プロフィール

大阪国際児童文学振興財団は「子どもの本と文化を、子どもの未来のために」をモットーに、子供の本に関わる大人への講座や講演会、おはなし会などの子供への読書活動、海外の作家や児童文学研究者の招聘活動、アマチュア作家を対象とした「日産 童話と絵本のグランプリ」、研究活動や児童文学等に関する資料の収集を行っている団体です。

平成26年度助成活動で開発された教材一覧

団体名	教材名	教材URL
一般社団法人 インターネット コンテンツ審査監視機構	「ネット社会を生きるカーインターネットを 使いこなす6つの秘訣」	http://www.dcajr.jp/index.html
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団	読書活動支援ソフト「本の海大冒険」	http://www.justice.co.jp/iiclo/
公益財団法人 学習ソフトウェア 情報研究センター	体験しよう日本の伝統芸能「はじめての雅楽」	http://www.gakujoken.or.jp/gagaku/
一般財団法人 クマヒラセキュリティ財団	「いじめのない心をそだてる」	http://ijimenonaikokoro.kumahira.org/
特定非営利活動法人 地球船クラブ	外来生物の侵入から日本の自然を守れ！ ボクたちの自然再生プロジェクト	http://nature-pj.info/index.html#id1
天プラネット	宇宙のすべてを俯瞰する 宇宙図@オンライン	http://www.tenpla.net/babel/
特別支援教育デザイン研究会	親子でつくるソーシャルスキル教材 ～地域で連携する障がい児サポート～	http://sn1.e-kokoro.ne.jp/oyako/
一般財団法人 日本視聴覚教育協会	けん玉で楽しくあそびみよう 改修版	http://www.javea.or.jp/kendama/
公益社団法人 日本山岳会	親子で楽しむ山登り	http://www.jac.or.jp/oyako/
特定非営利活動法人 まちと学校のみらい	みんなで育む子どもの未来～もっと子どもの 笑顔が輝く活動の手引き～	http://coconobi.net/
Moving Waves	神楽の伝承大百科	http://www.mwaves.expressweb.jp/index.html



日中韓子ども童話交流事業

- 事業名／子ども童話体験交流2014
- 事業期間／2014年8月18日（月）～22日（金）
- 実施場所／宮城県仙台市及びその周辺
- 参加者／小学6年生32人、グループリーダー（本事業参加経験者）4人
- 主催／日中韓子ども童話交流事業実行委員会
（構成団体：子どもの未来を考える議員連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構）

事業の背景

日中韓子ども童話交流事業は、日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、相互理解と友情を深めることを目的として、平成14年の「日中韓国民交流年」を機に日本で開始しました。平成26年度も、日本、中国、韓国の小学生100人を集め、日中韓子ども童話交流事業として、中国で開催する予定でした。しかし、韓国で4月に起きた客船事故の影響によってやむなく延期になったため、日本の児童のみを集めて特別に「子ども童話体験交流2014」として開催することとなりました。



1日目の夜は「グループの歌」づくりに取り組みました。

事業のねらい

本事業は、全国各地の小学6年生32人が一堂に会して交流し、協力しながらオリジナルの絵本を作ることで、読書力を高め、互いの友情を育むことを目的としています。



それぞれが描いたページをかかげて、充実感いっぱいです。

世界に一つだけの創作絵本

絵本づくりは16ページの絵本を各グループで作り、1人が見開きの2ページ分の絵と文章を担当しました。表紙と裏表紙は、グループリーダー（本事業参加経験者）が作成しました。



絵本発表会では、仲間と助け合いながら発表しました。



(1班-A組)「あわてすぎたサンタクロース」



(1班-B組)「妖精と魔法の花」



(2班-A組)「未来を救え!」



(2班-B組)「笑えばいいさ」

事業の日程・プログラム内容

月/日	午前/午後	プログラム内容
8月18日	午後	・オリエンテーション ・開会式（挨拶：河村建夫実行委員長） ・歓迎夕食会（地元伝統芸能「すずめ踊り」） ・さとう宗幸さんのミニコンサート ・グループのモットーづくり ・グループの歌づくり①
8月19日	午前	・俳句づくりに関する講義 ・塩釜港から遊覧船で松島に移動 ・船上で東日本大震災の語り部から体験談を聞く
	午後	・俳句づくり ・仙台城を見学 ・グループの歌づくり② ・花火遊び
8月20日	午前	・宮城県立自然公園二口峡谷磊々峡（らいらいきょう）を見学 ・講師による絵本朗読 ・絵本づくりに関する質疑応答 ・絵本づくり①
	午後	・秋保大滝を見学 ・絵本づくり② ・隠し芸大会
8月21日	午前	・絵本づくり③ ・蔵王ハートランド牧場で動物と触れ合う
	午後	・バーベキュー、バターづくり ・火口湖「御釜」を見学 ・俳句及び絵本の発表会
8月22日	午後	・閉会式（挨拶：子どもの未来を考える議員連盟 郡和子衆議院議員）

事業の特色

日中韓子ども童話交流事業では毎回テーマを設けて事業を実施していることから、本事業でもそれにならい「歌」という交流テーマを設けました。このテーマに基づき次の5つの活動をプログラムに取り入れました。

- ① 「花は咲く」をテーマソングとし、開会式や閉会式に全員で合唱しました。東日本大震災の被災地で開催することを受け、復興への希望と犠牲者を鎮魂する「花は咲く」をテーマソングにしました。
- ② 俳句づくりを取り入れました。まず、俳人の小島健先生から季語の使い方など俳句づくりの基礎を学びました。その後、参加者は俳句手帳を持ち松島で一人10句以上詠むという課題に取り組みました。
- ③ 地元宮城県で活躍を続けるさとう宗幸さんをゲストに招き、ミニコンサートを開きました。「虹をかけよう」やテーマソング「花は咲く」は、参加者全員で大合唱になりました。
- ④ グループごとに「グループの歌」をつくりました。「ぼくらはみんな生きている（手のひらを太陽に）」、「ふるさと」、「ドラえもんの主題歌」などから一つ選び、グループで考えた「自分たちが5日間を共に過ごすうえでのモットー」を反映した替え歌を作りました。
- ⑤ メインプログラムである絵本づくりに3つの課題に「歌」を取り入れるようにしました。設けた課題は3種類で「(i) 歌をテーマにする、(ii) 仙台での体験を入れる、(iii) 不思議なことを盛り込む」としました。

事業の成果

参加者は、絵本を自分たちで作ることにより、絵と言葉の関わり、ページのめくり、絵の構図や色使いなど絵本の仕組みについて考えることができました。

参加した子どもたちの感想には、「絵本を読んでいる人に伝えるように工夫して書かなくてはいけなかったので大変でした。でも、友達と一つの物語を作成できて楽しかったし、嬉しかった。また自分でも小説を書いてみようと思います。」とあり、絵本づくりを通して作者視点の工夫を考える機会になり、今後読書をする際の新たな観点を養うことができました。

この他にも、「前よりもっと自分に自信がもてるようになった。仲間と協力して目標に向かって一つになることの大切さを教えてくれた。」や「課題にぶつかった時、やる前からできないと決めつけず、まずやってみること。そして、やるからにはたくさんの人と協力すること。そうすると、やった時の達成感や楽しさが全然違う。最初の一步を踏み出す勇気とみんなと協力すれば何でもできるということを学びました。」といった感想があり、「絵本づくり」を協力することで、参加者間の友情を育むことができ、さらには、一人ひとりの自信を育むことができました。

日中韓子ども童話交流日本人OB会2014

これまで2010年度及び2013年度に、日中韓子ども童話交流と同時開催で各国の事業参加者を集めてOB交流会を実施しました。しかし、今年度は日本人参加経験者のみでの開催となり、1期～3期までの17名が仙台に集合しました。そして、今回を機に、日中韓子ども童話交流日本人OB同窓会事務局が発足しました。参加者たちは、同窓会の運営・広報・イベント企画の方向性に関して意見を出し合うなど、事務局の現状と将来について語り合いました。

最後に、協議内容を主催者並びに関係者のみなさまにプレゼンテーションもしました。その内容は、現時点でできることとして、参加経験者の連携を深めるため会報を作成したり、FacebookやTwitterのアカウントを作成したりすることを説明しました。さらに、1年後の目標や10年後の目標を定めて同窓会の活動を盛んにすることを発表しました。



OB同窓会プレゼンテーションの準備

申請・採択状況

(8月1日現在)

平成27年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	5,010	4,665	2,006,049
子どもの読書活動	669	559	161,890
教材開発・普及活動	70	29	202,451
合計	5,749	5,253	2,370,390

平成26年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	4,434	4,052	1,600,315
子どもの読書活動	617	520	188,145
教材開発・普及活動	84	23	147,119
合計	5,135	4,595	1,935,579

平成27年度 都道府県別申請・採択状況

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	242	231
	読書活動	21	18
青森県	体験活動	34	32
	読書活動	4	4
岩手県	体験活動	47	40
	読書活動	5	4
宮城県	体験活動	59	54
	読書活動	5	4
秋田県	体験活動	23	22
	読書活動	1	1
山形県	体験活動	47	46
	読書活動	3	3
福島県	体験活動	80	71
	読書活動	11	6
茨城県	体験活動	74	70
	読書活動	11	8
栃木県	体験活動	81	71
	読書活動	9	8
群馬県	体験活動	71	68
	読書活動	4	4
埼玉県	体験活動	176	168
	読書活動	15	10
千葉県	体験活動	219	206
	読書活動	18	16
東京都	体験活動	828	762
	読書活動	117	92
神奈川県	体験活動	186	171
	読書活動	18	18
新潟県	体験活動	109	102
	読書活動	8	6
富山県	体験活動	17	17
	読書活動	1	0
石川県	体験活動	60	56
	読書活動	4	4
福井県	体験活動	34	32
	読書活動	6	5
山梨県	体験活動	83	77
	読書活動	6	6
長野県	体験活動	86	81
	読書活動	10	9
岐阜県	体験活動	79	72
	読書活動	6	6
静岡県	体験活動	108	101
	読書活動	21	17
愛知県	体験活動	168	160
	読書活動	28	22
三重県	体験活動	41	38
	読書活動	5	5
滋賀県	体験活動	67	66
	読書活動	14	12
京都府	体験活動	107	94
	読書活動	10	8
大阪府	体験活動	357	339
	読書活動	64	52
兵庫県	体験活動	238	218
	読書活動	20	17
奈良県	体験活動	75	67
	読書活動	14	13
和歌山県	体験活動	53	51
	読書活動	6	5
鳥取県	体験活動	23	19
	読書活動	1	1
島根県	体験活動	30	29
	読書活動	8	8
岡山県	体験活動	88	84
	読書活動	17	13
広島県	体験活動	46	39
	読書活動	7	4
山口県	体験活動	26	25
	読書活動	9	9
徳島県	体験活動	52	49
	読書活動	4	4
香川県	体験活動	38	38
	読書活動	5	5
愛媛県	体験活動	93	87
	読書活動	8	5
高知県	体験活動	58	56
	読書活動	6	6
福岡県	体験活動	234	221
	読書活動	37	32
佐賀県	体験活動	23	22
	読書活動	5	5
長崎県	体験活動	60	57
	読書活動	11	8
熊本県	体験活動	81	72
	読書活動	34	32
大分県	体験活動	35	34
	読書活動	8	5
宮崎県	体験活動	48	47
	読書活動	14	12
鹿児島県	体験活動	190	173
	読書活動	26	24
沖縄県	体験活動	36	30
	読書活動	4	3

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子供の体験活動や読書活動などの振興を図り、子供の健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。下記の募金口座にて募金を受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

口座番号 00150-5-371382

口座名義 子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書在中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名 三菱東京UFJ銀行 渋谷支店

口座番号 普通預金 3025103

口座名義 子どもゆめ基金

子どもゆめ基金への支援

検索

「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様

平成26年度に「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた主な方々です。

(あいうえお順・敬称略)

株式会社伊藤園	特定非営利活動法人思いをつなぐ会
栞原 靖	コカ・コーライーストジャパン株式会社
特定非営利活動法人 子ども文化ステーション	シンソー印刷株式会社
特定非営利活動法人 青少年育成ネットワーク・ウィング	曾我部 國久
特定非営利活動法人 日本子守唄協会	特定非営利活動法人 八王子市レクリエーション協会
株式会社八洋	特定非営利活動法人 ホワイトベル
松尾 拓郎	村井 悠治
ライフカード株式会社	

子どもゆめ基金ガイド2015

2015年9月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 0120-579081 (フリーダイヤル)

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

教育施設一覧

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢市)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県前橋市)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)

子どもゆめ基金についてのお問い合わせ

TEL : 0120-579081 E-mail : yume@niye.go.jp

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/>



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL 03-3467-7201 (代表)
URL <http://www.niye.go.jp>